

【工事計画認可の審査状況について質疑応答】

Q

液状化対策工事の設計基準は中越沖地震に耐えられるレベルか、それともさらに大きい地震にも耐えられるということなのか。また、資料の中で古安田層に変化があるのは、その上の部分を何か工事をしているからなのか、それとも同じ古安田層の中でも違いがあるということなのか。

東京電力

安全上重要な設備については、西山層に杭で支持する、または、直接のせるといった対応を行うっており、さらに必要な液状化対策を講じている。また直接西山層に設置していないアクセス道路などは、機能として必要な場所についても、液状化対策を順次進めている。但し、それ以外の場所ではご指摘いただいたような状態になる部分もある。

Q

古安田層は西山層よりは緩い地層という理解でよいか。

東京電力

相対的に話をすればそのような状態であるが、硬い・やわらかいだけが重要ではなく、地層の中の状態がどのようになっているかを考えることが重要だと考えている。

Q

フィルタベントの杭の周りだけ地盤改良をしているが、その周りの地盤改良していないところにひずみが生まれないのなぜか。

東京電力

中越沖地震よりも大きいレベルの地震を想定している。地層の中のひずみについては、西山層と古安田層の硬さや強さの差によって、その境目のところで力が生じ、ひずみが発生している状態と考えている。

Q

東京電力  
規制庁

地盤改良によって、やわらかい部分を硬いもので囲んで抑え込むことができるため、ひずみを抑制することができる。(図参照)

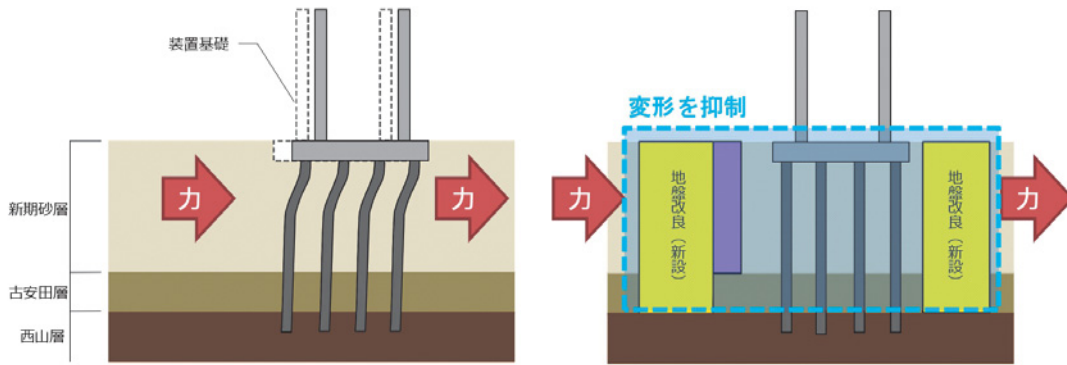
【その他質疑応答】

Q

新検査制度について、抜き打ちで検査す

【解説】液状化対策工事で変形を抑制するイメージ

- 液状化対策前、基礎杭周辺の地盤が液状化すると、その力（土水圧）によって変位が生じる（そのイメージを強調して図示）
- 液状化対策、基礎杭の周囲を地盤改良し堅くすることによって、周囲から作用する力（土水圧）に対して抵抗でき、変形を抑制することができる。杭に生じる力も小さくすることができる。



液状化対策前  
(変形するイメージを強調して図示)

液状化対策あり

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

東京電力HD 資料より

規制庁

規制庁の新検査制度を外部が評価する仕組みは今はない。PDCAを回せるような取り組みを今後検討していかなければならない。外部の評価については、有識者が規制委員会の活動を見る組織があるので議題として見てもらうようお願いすることも案の一つである。規制事務所の検査活動のPDCAについては、年度当初に検査計画を作成し、検査の進捗を計りながらPDCAを回している。

るといのは企業でいうPDCA(※)サイクルのようなことだと思いがそれを本当にやっているのか。また、規制に対する評価については外部の団体等が評価するような仕組みはあるか。

※PDCA：生産技術における品質管理などの継続的改善手法。計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Act)のサイクルを繰り返すことにより継続的な業務改善を促す。